



にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

編集者より

今回の「にぎわい通信」第112号では、利尻富士町、稚内市での“にぎわい”をご紹介しますとともに、今年度特集している「漂着ゴミ問題」をテーマとして、苫前町、利尻町、礼文町での取り組みをご紹介します。



会員だより

利尻富士町 -利尻島を覧人G(ランニング)！過去最高の225名が参加！-

利尻島を1周する「第7回利尻島1周悠遊覧人G(ゆうゆうらんじんぐ)」(実行委員会主催)が平成19年6月3日(日)に開催されました。今年で7回目を迎えた本大会には、過去最高の225名が参加しました。参加者は、道外から89名の参加があり、南は沖縄県からの3名の参加がありました。

大会前日の2日夜には参加者の交流を深めるため「利尻島開発総合センター(駕泊)^{おしどまり}」で懇親会を開き、参加したランナーは“にぎわい”のあるひとときを過ごしました。

翌3日、同センター前で開会式のあと、午前5時の号砲とともに一斉にスタートを切りました。コースは駕泊から沓形^{くつがた}、仙法志^{せんぼうし}、鬼脇^{おにわき}、駕泊を経由する海岸沿線約55キロメートル。当日は天候にも恵まれ、最高のランニング日和。一心不乱にゴールを目指すランナーや最高の自然をゆっくりと楽しむマイペースランナー、観光スポットで写真を撮るランナーなど参加された方は思い思いの走りを見せていました。制限時間の午後4時までに198人が完走し、参加者した方は最高の1日となったようです。

来年も6月頃に開催する予定です。



「利尻島1周悠遊覧人G」の様子



利尻富士を背景に記念撮影

稚内市 - 「みなと振興計画」について-

平成 19 年度に創設された「みなと振興計画」の全国第 1 号として、平成 19 年 4 月 10 日に稚内港北地区「国内・国際交流拠点再生計画」が認定され、7 月 9 日に稚内市庁舎で授与式を行いました。

このたび認定された「みなと振興計画」に基づき、港湾来訪者の交流機会増加を目的として、緑地整備と利尻礼文両島への離島フェリー及びサハリンへの国際フェリーを集約した旅客待合・交流施設の整備を平成 19 年度から 5 年間かけて行います。

また、今回認定された「みなと振興計画」の区域を含めた稚内港一帯を「みなとオアシス」として登録するため、現在、準備を進めているところです。

北ふ頭においては、歴史的遺産である「北防波堤ドーム」を中心に、増加傾向にある各種イベントに対応した賑わい空間の創出を図るため、緑地の整備を行います。

一方、中央ふ頭においては、利尻・礼文島への観光客が交流の場として活用できる離島旅客待合・交流周辺施設、日ロの国際文化交流の場としての機能を持った国際旅客待合・交流施設の建設および周辺施設整備を行います。



みなと振興計画認定証の授与式
左:横田稚内市長 右:山口開発局港湾空港部長



緑地のイメージパース



国際旅客待合・交流施設のイメージパース



みなとオアシス「わっかない」エリア図 (登録作業中)

旅客待合・交流施設

・駐車場・トイレ
・インフォメーション

みなとオアシスエリア

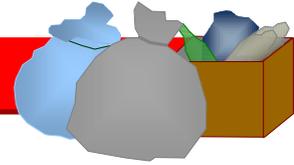
副港市場

・駐車場・トイレ
・物販飲食・交流スペース
・インフォメーション

北防波堤ドーム・緑地

・交流スペース・トイレ
・各種イベントの開催

特集：漂着ゴミ問題



苫前町

-5月30日（ゴミゼロ）に海岸清掃-

北海道の北西部に位置し日本海に面する苫前町は、南北へ縦貫する国道 232 号沿いに約 17 キロメートルの海岸を有しており、毎年、ゴミゼロに合わせて 5 月 30 日を目途に海岸清掃活動を実施しています。

この取組みは、日本海側の海岸線のイメージアップを図ることを目的に平成 6 年から始まっており、苫前町が事業主体となって各町内会、老人クラブ、婦人会、学校関係、高齢者事業団、地元建設協会等 19 団体がボランティアで協力しながら行っているものです。

取組み当初の頃は、流木、木片、海草類といった自然物が多かったのですが、近年は缶類、ペットボトル、プラスチック類、ロープ等といった人工物が多く漂着しています。なかには冷蔵庫や車のタイヤなどのゴミもあり、海岸での清掃活動も大がかりとなっています。

本年も 5 月 30 日に実施し、各関係団体から総勢 164 名が参加しました。また、海岸線を 6 地区に分け、担当した海岸にて清掃を行いました。集められたゴミの総量は約 6 千 4 百キログラムにもなり、一般廃棄物処理場へ運搬して埋設処分を行いました。



地元ボランティアによる海岸清掃の様子



集められた海岸漂着ゴミの様子

利尻町

-地元漁業組合による海岸清掃-

利尻町では海が穏やになると同時に漁が忙しくなる前に、毎年各地区の漁業協同組合が主体となって毎年 4 月下旬に町内の漁業者や役場関係者、組合職員など約 300 人が参加し、海岸で一斉清掃を実施しています。

利尻島の西海岸は、日本海を北上する対馬暖流と大陸からの西風により、島内でも漂着するゴミが多い場所となっています。近年は、魚網やロープなどの漁具以外に韓国語やロシア語で書かれた



利尻島西海岸に漂着したゴミの様子

漂着ゴミが多くなりました。

本年は4月29日に実施し、^{くつがた}沓形・^{せんぼうし}仙法志両地区全体で2トントラック8台分のゴミが処分され、海岸一帯はいつもの美しい海岸によみがえりました。

年間約20万人の観光客が訪れる利尻島。ほかにはない美しい海、何気ない磯の香り、鼓膜を心地よく揺らす磯波のBGM……。これからも地道な海岸清掃活動を通じて、今後も島民一丸となって利尻島の自然を守っていきたいと思います。



地元漁業組合による海岸清掃の様子

礼文町

-海岸清掃を学習の場に-

本年4月26日に礼文島内一斉のクリーン作戦が行われ、今年度は町内の全小・中学校及び礼文高校が参加しました。

これまで自主的に海岸清掃を行っていた^{ふなとまり}船泊中学校では、地元ボランティアとともにスコトン岬からゴロタ岬までの海岸に漂着したゴミを収集しました。



ゴミをトラックに積込む様子

この清掃活動は、単にゴミを拾うだけではなく、参加した生徒に対し「自分と人の心を大切にする奉仕の心を考えながら、自ら行動できる」、「ゴミの分類調査をとおして、環境やモラルについて考える機会とする」ことをねらいとし、学習の場として海岸清掃に参加しています。今後も引き続き継続していく予定です。

収集されたゴミは、ペットボトル、家庭ゴミ、漁具など5種類に分類しました。またゴミの数量やラベル表示から、どこから来たゴミなのかを記録しました。

この記録を基に生徒の意見や感想をまとめ、調査結果を回覧板にして地元地域に伝えられました。

ふるさと自分たちで守るんだ!

【生徒の声】

- アワビコサンにゴミにもたくさん人のゴミがある。おならでも置かざらねえ。
- 犬や猫の糞もゴミだ。だが中に砂混入の糞のゴミが落ちてきていて悪い。
- ゴミを捨てる時とても大変だ。たしこれ以上もゴミを汚してほしくない。
- ゴミ捨て場はキレイなことだわかった。おたまたまもゴミ捨て場を綺麗にしたい!

回覧された「クリーン作成会報」の1ページ
(船泊中学校生徒作成)

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 事務局

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課 調査係 加藤

Tel : 011-709-2311 (内線5617)

Fax : 011-709-2147

E-Mail : katou-t22am@hkd.mlit.go.jp